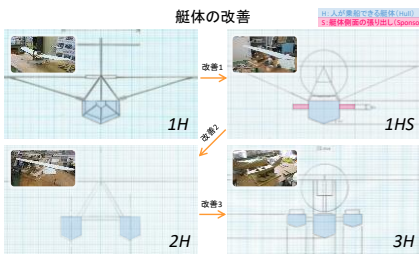


# 名市工 NEWS

<第239号>

## 飛行機同好会，地域防災向け飛行艇の飛行実証モデルを発表！

飛行機同好会は、1/31に名古屋市科学館に 既報No. 217 で紹介した地域防災向け飛行艇開発の成果を報告し、2/8に今年度の取り組みを説明するプレゼンを撮影。そして、その動画をもとに、新明和工業（神戸市、100年に及ぶ日本の飛行艇技術を継承しながら発展し続けている）と、愛知県防災航空隊（豊山町、あいちの防災航空拠点）に報告しました。その結果、両団体から、提案する飛行艇の強度や開発の進め方など、今後の活動に有益な助言を得ることができました。発表した飛行実証モデル（縮尺比1/10のラジコン機）を紹介します。



デザイン検討の経緯



地域防災向け飛行艇の飛行実証モデル



併せて、この取り組みが、昨年の機体コンセプトの発表に続き、**中日新聞**に掲載されたことをお知らせします。

### 救助飛行艇開発の夢託す

災害時に役立つ小型飛行艇の開発に取り組んでいる名古屋市立工業高校（中川区）の飛行機同好会が、現在の研究の進捗状況を動画にまとめ、協力を仰ぐ関係機関に報告した。改良を重ねて機体設計し、現在は実際に無線操縦で動かすラジコン機を制作中。これまで中心となってきた取り組みで、三年生は卒業を機に同好会を引退するが、夢を託された後輩が完成に向けて努力を続ける。（大野雄郎）

飛行艇は水面で離着陸でき、航空機と船の機能を併せ持つ。同好会では、東海地方に甚大な被害をもたらした伊勢湾台風の発生から二十一年たった二〇一九年、海抜が低い地域で起きうる水害の際に役立つ新機体を造れないかと発案し、研究が進められてきた。

開発中の飛行艇には、都市の沿岸部が冠水した際に出動し、救難活動を行えるようにする役割を持たせる。水害現場にたどり着いた後、搭乗員が主要を取り外して救難ボートとして組み立てられるようにするのが目標だ。同好会では、現在所属する五人の生徒が、水害現場でボートの組み立て作業が安全に行え

#### 3年生卒業 在校生「絶対完成させる」

およそ二回の改良を重ねて機体設計した。二月下旬には同校で、部員四人が、これまでの開発成果と今後の展望を紹介する動画を制作し、県の防災航空隊や、飛行艇を製造する新明和工業（兵庫県宝塚市）に送り、機体の強度や開発を進める際の心構えについてアドバイスを求めた。二年度以降は制作したモデル機を使い、離水や飛行、着水のテストもしたいと考えた。

昨年十一月まで部長だった三年生の村山圭介さん（一人の役を担う）も退部した。二生懸命取り組んできた。完成まで迫りきれなかった悔しさもある。一話、新部長に就任した一年生の藤原健太さん（一人の世話を焼く）も退部した。絶対完成させて飛んでいる姿を見せたいと意気込んでいる。



2021 2/20 (土) 朝刊

### 救助の翼 ボートに変身

名古屋市立工業高校 向中川区の飛行機同好会の生徒だが、水難救助で力を発揮する「飛行艇」の開発に挑んでいる。きっかけは、昨年九月に生かた二十年を迎え伊勢湾台風に関する防災学習（一）も、この地域で再び大規模な冠水が起きたら、水面で発着できる飛行艇が役立つはず」と考え、持前の知識と独創性で夢の有人飛行を目指す。（安藤孝徳）

#### 伊勢湾台風60年学習で着想

旧期の市立航空工業学校の流れをくむ同校は、航空機を扱う人材育成にも力を注いでいる。同好会は、その中でも一人、倍の飛行艇好きが集まって、二〇一〇年に発足した部活動だ。一七一年には高校生として前例のない、手作り製のラジコン機「ハコ式」名市工「フレイヤー」の飛行に成功した。

現在の同好会は、その快挙の後に入学した二、三年生の計八人、自分たちが、ゼロから飛行艇を造ってみたいという思いを抱いていた。機体設計三年の藤原健太さん（二）と服部大空さん（二）は「せつかくなら地域の役に立つ機体」と考えた。

折しも伊勢湾台風60年の特報報道で、高校のある中川区を含めた広い範囲で水害があったことが知り、災害支援に生かせる飛行艇を着想し、海上自衛隊が実際に運用していた救難飛行艇「US-1A」を展示する岐阜県かがみはら航空宇宙博物館（岐阜県各務原市）にも足を運んで機体を確認し、昨年九月の文化祭で

旧期の市立航空工業学校の流れをくむ同校は、航空機を扱う人材育成にも力を注いでいる。同好会は、その中でも一人、倍の飛行艇好きが集まって、二〇一〇年に発足した部活動だ。一七一年には高校生として前例のない、手作り製のラジコン機「ハコ式」名市工「フレイヤー」の飛行に成功した。

現在の同好会は、その快挙の後に入学した二、三年生の計八人、自分たちが、ゼロから飛行艇を造ってみたいという思いを抱いていた。機体設計三年の藤原健太さん（二）と服部大空さん（二）は「せつかくなら地域の役に立つ機体」と考えた。

折しも伊勢湾台風60年の特報報道で、高校のある中川区を含めた広い範囲で水害があったことが知り、災害支援に生かせる飛行艇を着想し、海上自衛隊が実際に運用していた救難飛行艇「US-1A」を展示する岐阜県かがみはら航空宇宙博物館（岐阜県各務原市）にも足を運んで機体を確認し、昨年九月の文化祭で

飛行艇 水に浮き、航空機と船の両方の能力を持つ。滑走路を必要とせず水面があれば発着できる。海上自衛隊は1976～2017年、新明和工業製の「US-1A」=写真=を救難飛行艇として運用し、海難者や離島の急病患者ら計827人を救助・搬送した。現在は後継の「US-2」が使われている。

開発計画を発表した。US-1Aを参考にしつつ、独自の機体を目指す。全長は約三メートル、同様の半分以下の約一メートル、二人乗りを想定。着水時に開閉可能な浮力材を備え、必要時救助物資を運ぶ。救助物資を運ぶ。救助物資を運ぶ。救助物資を運ぶ。

2020 1/10 (金) 夕刊